

安全データシート (SDS)

【1. 化学名及び会社情報】

製品名 業務用消臭除菌水生成用原液(酸性タイプ)
 型名 FW-JN20
 会社名 エア・ウォーター・バイオデザイン株式会社
 住所 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目3番1号 国際くらしの医療館・神戸 3階
 電話番号 078-304-5356

【2. 危険有害性の要約】

GHS 分類

環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
-------	----------------	------

(注) 記載なき GHS 分類区分：該当しない／分類できない

GHS ラベル要素

絵表示	絵表示なし
注意喚起語	注意喚起語なし
危険有害性情報(コード)	水生生物に有害(H402)
注意書き	【安全対策】 環境への放出を避けること(P273) 【廃棄】 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること(P501)

【3. 組成及び成分情報】

混合物/単一化学物質の選択：混合物

成分名	電解質	調整剤	水
含有量 (%)	—	—	—
CAS No.	—	—	—
化審法番号	非公開	非公開	—
化審法	—	—	—

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

塩化水素

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

塩化水素

【4. 応急措置】

吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ➤ 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 ➤ 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ➤ 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 口をすすぐこと。 ➤ 気分が悪いときは医師に連絡すること。

【5. 火災時の措置】

消火剤	適切な消火剤 周辺設備に適した消火剤を使用する。
特有の危険有害性	加熱すると容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火を行う者の保護	防火服/防災服/耐火服を着用すること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項 保護具及び緊急時措置	回収が終わるまで十分な換気を行う。 適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。
二次災害の防止策	漏出物を回収すること。

【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い	<p>《技術的対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ （火災・爆発の防止） 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。 <p>《局所排気、全体換気》</p>
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 排気/換気設備を設ける <p>《注意事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 皮膚に触れないようにする。 ➤ 眼に入らないようにする。 <p>《安全取扱注意事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。 ➤ 取扱中は飲食、喫煙してはならない。
保管	<p>《適切な保管条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 容器を密閉しておくこと。 ➤ 直射日光を避け、換気の良い冷暗所（または暗所）で保管する。

【8. ばく露防止及び保護措置】

管理指標	➤ 管理濃度データなし
許容濃度	<ul style="list-style-type: none"> ➤ (調整剤) 日本産衛学会(2014) (最大値) 2ppm; 3.0mg/m³ ➤ (調整剤) ACGIH(2000) STEL: 上限値 2ppm (上気道刺激)
OSHA-PEL	➤ (調整剤) C 5ppm, 7mg/m ³
設備対策	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 適切な換気のある場所で取扱う。 ➤ 洗眼設備を設ける。 ➤ 手洗い/洗顔設備を設ける。
保護具	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 呼吸器の保護具 : 呼吸用保護具を着用すること。 ➤ 手の保護具 : 保護手袋を着用する。 ➤ 眼の保護具 : 保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

【9.物理的及び化学的性質】

外観:	無色透明の液体
臭い:	データなし
pH:	酸性
融点/凝固点:	データなし
分解温度:	データなし
引火点:	データなし
自然発火温度:	データなし
爆発特性:	データなし
蒸気圧:	データなし
蒸気密度:	データなし
比重/密度:	1.027g/cm ³
溶解度	
水に対する溶解度:	混和する
n-オクタノール/水分配係数	データなし

【10.安定性及び反応性】

化学的安定性	➤ 通常の取扱条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性	➤ (塩化水素)水溶液は、強酸である。塩基と激しく反応し、腐食性を示す。酸化剤と激しく反応する。有毒なガス(塩素)を生じる。水の存在下で、多くの金属を侵す。引火性/爆発性ガス(水素)を生じる。(ICSC0163)
避けるべき条件	➤ 混触危険物質との接触。 ➤ 火源との接触。
混触危険物質	➤ 塩基、酸化性物質、金属
危険有害な分解生成物	➤ 塩素、水素

【11.有害性情報】

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性（経口）

[日本公表根拠データ]

(調整剤)

rat LD50 =238 mg/kg (SIDS, 2009)

[会社固有データ]

(電解質)

rat LD50= 3000mg/kg

急性毒性（吸入）

[日本公表根拠データ]

(調整剤)

mist : rat LC50=0.42 mg/L/4hr (SIDS, 2009)

労働基準法：疾病化学物質

塩化水素

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]

(調整剤)

ラビット/マウス/ラット/ヒト 腐食性 (SIDS, 2009)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

(調整剤)

ラビット 腐食性 (SIDS, 2002)

[会社固有データ]

(調整剤)

Category 2A

感作性

呼吸器感作性

[日本公表根拠データ]

(調整剤) cat.1; 日本職業・環境アレルギー学会

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

(調整剤)

IARC-Gr.3: ヒトに対する発がん性については分類できない

(調整剤)

ACGIH-A4(2000): ヒト発がん性因子として分類できない

生殖毒性データなし

特定標的臓器毒性 (単回/反復 ばく露) データなし

吸引性呼吸器有害性データなし

誤えん有害性データなし

【12.環境影響情報】

生態毒性

水生環境有害性

水生生物に有害

水生環境有害性 短期 (急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(調整剤)

甲殻類 (オオミジンコ) $EC_{50}=0.492\text{mg/L}/48\text{hr}$ (SIDS, 2005)

[会社固有データ]

(電解質)

魚類(ブルーギル) $LC_{50} = 7341\text{mg/L}/96\text{hr}$

水溶解度

(調整剤)

$67\text{ g}/100\text{ ml}$ (30°C) (ICSC, 2000)

残留性・分解性データなし

生体蓄積性

(調整剤)

$\log Pow=0.25$ (ICSC, 2000)

土壤中の移動性データなし

オゾン層への有害性データなし

【13.廃棄上の注意】

《残余廃棄物》

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

《汚染容器および包装》

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去洗浄すること。

【14.輸送上の注意】

国連番号、国連分類

国連番号に該当しない

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Z類)

塩化水素

有害でない物質(OS類)

水

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

【15.適用法令】

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

塩化水素(別表第9の98)

名称通知危険/有害物

塩化水素(別表第9の98)

有害物ばく露作業報告対象物質(平成29年対象・30年報告)

塩化水素

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法に該当しない。

大気汚染防止法

ばい煙

有害物質

塩化水素

特定物質

塩化水素

水質汚濁防止法

指定物質

塩化水素

【16.その他の情報】

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)
2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2017 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>
JIS Z 7253 (2012年)
JIS Z 7252 (2014年)
2017 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ(NITE 令和元年度(2019年度))です。

当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制については使用者自ら調査し最優先させていただきます。

国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。

このSDS はエア・ウォーター・バイオデザイン株式会社の著作物です。

当該物質の日本語によるSDS と他国言語にて翻訳されたSDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され、他国言語による文書は参考文書とします。